

2022 年 9 月 29 日

博報堂教育財団 第15回、16回「日本研究フェロシップ」

成果報告書

I. 研究成果概要

氏名（フリガナ） 在住国名	FRALEIGH Matthew Patrick（フレイリ マシュー パトリック） アメリカ
所属・役職	ブランダイス大学・准教授
招聘回：招聘研究予定期間 （招聘研究期間）	第16回：2021年9月1日～2022年8月31日 (2021年12月1日～2022年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	戦後の日本の漢詩雑誌と詩の正典（カノン）
研究目的	本研究は、戦後日本の文学のあり方を、漢詩文雑誌の視点から再評価し、これまで見過ごされてきた昭和期の漢学者の持つ同時代の文化への影響力や国際的なネットワークについて明らかにしようとするものである。「戦後の日本の漢詩雑誌」と聞けばどのようなものかイメージを持ちにくい人も多いが、近代以来文壇の中心から退いた日本漢文芸は、そのまま消えていったわけではない。1951年に設立された『雅友』という漢詩専門誌は、十九年間も続き、全国規模の読者を獲得した。戦後に創刊した漢詩文芸誌は、六誌も確認できるが、これらを調べることによって、戦後日本の漢詩壇の変遷を明らかにし、日本漢文学史の最終章を描こうとするものである。
研究成果概要	
1. どのように研究を進めたか（具体的に）	この研究を進めるに当たって、『雅友』という漢詩専門文芸誌を中心に文献調査に着手した。戦後に創刊された漢詩文芸誌は、複数確認できるが、『雅友』を特に選んだのは、二十年近くも継続されたことと、全国的な規模を持っていたことが挙げられる。今まで『雅友』の第1号から第40号までをじっくり読んで、掲載された記事、「詩世界」という漢詩欄に発表された現役詩人による作品、そして「風月往来」という投書欄に寄せた文章の内容を調査した。第1号から第40号までの「詩世界」に詩を発表した人は、全部で302名だった。今のところ、302名のうち、150人を特定できた。

2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に）

『雅友』に寄稿した人は、様々で、戦後における漢詩文芸の裾野の広さがよくわかる。まず、読者及び執筆者のうち、著名な漢学者が多い。東京の大学に属している数人の漢学者も参加していたが、鈴木虎雄や小川環樹や吉川幸次郎といった京都大学に属している一流中国文学研究者が特に多いように思われる。もちろん昭和の代表的な漢詩人である服部担風や屈指の近代女性漢詩人である三浦英欄というような専門漢詩人も大勢いた。しかし、まったく無名のアマチュア詩人もかなり参加して、そのなかにはほぼ毎号に寄稿している詩人もいた。政治家や外交官もかなり参加していたが、なかに戦後初の駐米大使であった新木栄吉（碧軒）も漢詩数首を『雅友』誌上に発表した。また、日本以外の漢字文化圏（中国や台湾や韓国出身）の読者も数名いた。

3. 研究成果（予定を含む）

○論文（題目、掲載誌、発行者、掲載月、内容の概略（200字以内））

現在、準備中。本プロジェクトの成果を英語の研究書としてまとめるつもりである。英語圏においては、近年江戸・明治期の漢詩文が注目されるようになり、研究書が数冊刊行された。しかし、昭和期以降の漢詩文になると、研究者の間においてもその存在すらほとんど知られていないと言える。『雅友』やその他の戦後日本の漢詩文芸誌を主軸に、その詩や詩人たちの漢詩文芸に対する認識を紹介することが英語圏の研究者にとって有意義になる。

○口頭発表（題目、イベントの名称、日・場所、内容の概略（200字以内））

2022年8月10日 博報堂教育財団日本研究フェローシップの研究報告会を除けばない。

○その他の活動

2022年3月12日 早稲田大学で開催された「東アジア古典研究のグローバル化を目指して一言語と文化の翻訳論—」というワークショップのコメンテーターを務めた。

4. 今後の活動予定

『雅友』の第41号から最終号の第77号までの調査をこれから続ける。また、『雅友』以外の漢詩文芸誌を調べることによって戦後漢詩の全体象をよりはっきりと把握できると思われる。特に『中国古典詩』（1957～1963）や『東洋文化』の「詩林」（復刊 1961～）や『斯文』の「聖社詩草」（復刊 1948～）を調べるつもりである。

『雅友』の創刊者である今関天彭関係の資料は最近慶応義塾大学の斯道文庫に寄付された。一度、特別に見せていただいたが、整理が進んだらもっと活用できると思われる。

二十世紀後半期の台湾、中国、韓国でも中国古典詩を作る人が日本と同様に激減した。そこで日本の詩人たちは、同じ問題に直面しているほかの漢字圏の国々の詩人たちと交流を求めようとした。今までの調査で断片的にしか確認できなかったこの交流の実態についてもっと本格的に調べたいと思う。